

茶ぐわくゆんたく



164

新たな街づくりに向けて

―新開通り―

左上の写真は、1966（昭和41）年の普天間の新開通りで、アスファルト舗装および側溝工事の様子です。工事は、当時の5号線（現在の国道330号）側から、通りの250メートルに亘って行われました。この新開通りは、通りに宜野湾郵便局があったことで局前通りとも呼ばれていました。この他に飲食店や美容室、開放地琉映館といった映画館



▲新開通り 1966(昭和41)年
舗装、側溝工事の様子で、通り左側に探偵局がありました。右側の食堂は今も営業している老舗の食堂です。



▲現在の新開通り 2017(平成29)年11月

もあり、ずらん通りと新城区内へ通ずる普天間三区の中通りして交通量も多い主要道路でした。1960年代には、新開通り以外にも市内各地の幹線道路のアスファルト整備や排水施設の工事が行われたことで交通の便も良くなり、市民生活の向上につながりました。

左下の写真は、現在の新開通りの様子です。当時あった郵便局は移転しましたが、局前通りの名称は今も残り、飲食街や食堂は当時の雰囲気留めています。

はくぶつかんの部屋 ④

市民講座で地域を知る

寒い季節が近づくとこのごろ、市内・周辺市町村の小学3年生が博物館を訪れて展示見学と道具体験を行います。このような学校の社会見学や日頃の展示をはじめ、市民の皆さまへ宜野湾の歴史・文化を伝えるために、当館ではさまざまな活動を行っています。今回はその中から、大人の皆さまに好評の「市民講座」を紹介します。

市民講座は、毎年5月～2月の間に1、2回程度開催しており、基本的にどなたでも受講することができます。受講者に地域の歴史や文化を目的とし、講座ごとに各分野の専門家を講師として招いています。また、企画展の開催期間中はそれに関連する講座を開催し、展示内容をより深く知るためのお手伝いをします。

講座は主に、博物館内でお話をする「室内講座」と館外で巡見を行う「野外講座」があります。



▲室内講座の様子(2017年11月)



▲野外講座の様子(2017年6月)
※野外講座は、保険適応年齢・小中学生の保護者同伴など一部制限があります。

室内では、行事にまつわるディープな裏話や歴史研究の最新情報など、専門家ならではの貴重なお話を聞くことができます。一方、野外では、自然や文化財を実際に見ながら、講師と受講者の皆さまと気軽に語りあうことができます。

ときには、地元の先輩を招いて昔の出来事を経験者から直に教えていただくこともあります。これまでの受講者からは「宜野湾出身でも知らない話があった」「沖縄の歴史に興味をもった」という声があり、室内・野外講座ともに楽しく参加しながら改めて地域を知るいい機会となっているようです。

講座のほとんどは受講料無料です。はじめての方も、お気軽に参加してみたいかがでしょうか。

【問合せ】市立博物館 ☎ 870-9317 入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館ください。